

## 2022年度 法学部 高大接続入試（法学的思考型）講評

### 筆記試験

国語の基礎学力を総合的に問うような筆記試験を課しました。志願者によって若干の差はあったものの、志願者全員が一定程度の国語の基礎学力を有していると判断できました。

### グループディスカッション

#### 1. 課題文について

同性婚の是非を法哲学の“切り口”から論じることで、国家が婚姻を法的制度化することの是非を検討する文章を、課題文として提示しました。その出題意図は、「グループディスカッションのテーマである『婚姻の法的制度化の是非』について、正しく論じているか？——言い換えると、グループディスカッションのテーマではない『同性婚の是非』については、軽く言及する程度にとどめることができているか？——」「課題文における、婚姻の法的制度化をめぐる論旨——すなわち、法的制度化の賛成論は『婚姻のあり方は、社会のあり方に関係するので、法的制度化が必要』と主張し、法的制度化の反対論は『他人に危害を及ぼさないかぎり、介入すべきでない。それゆえ、法律婚制度そのものを廃止し、婚姻を私事化すべきである。』と主張する——を正しく理解できているか？」を、問うことにありました。

#### 2. グループディスカッションにおける評価ポイントについて

##### (1) 論理性、説得力

志願者によって、グループディスカッションのテーマである「婚姻の法的制度化の是非」を論点として取り上げることができているかについて、差がありました。（言い換えると、グループディスカッションのテーマではない「同性婚の是非」を論点として取り上げてしまっている志願者が、残念ながら、一定数いました。グループディスカッションにおいて「筋道を立てて物事を考えたうえで、他人を説得できるような理由づけを伴って、発言する」ことの大前提として、「そもそも、グループディスカッションのテーマに沿った発言をする」ということは、基本中の基本であることを、再認識してください。

##### (2) 視野の広さ、傾聴力、整理・集約力

上記(1)とも関連しますが、ある志願者がグループディスカッションのテーマである「婚姻の法的制度化の是非」から外れた発言をした場合、丁寧な言葉づかいで「テーマは、『婚姻の法的制度化の是非』であって、『同性婚の是非』ではありませんよね」というような発言をすることは、プラス評価につながります。特に司会者は、論点を的確に取りまとめ、論点から外れた発言を適宜指摘することが、プラス評価につながることを、覚えておいてください。

また、「最終的には、グループディスカッション参加者の様々な意見を適切に整理したうえで、20分の制限時間内にグループとしての結論を適切にまとめて、代表者が発表すること」を、強く意識してください。合格を目指すならば、グループディスカッション後半に、自分自身も含めた参加者全員の立場および理由づけを適切に整理して、グループとしての結論をまとめることに貢献するような発言をするのもよいでしょう。

### (3) 積極性

積極的に自らの意見を述べることができているかについては、志願者によって差がありました。積極的に自らの意見を述べるということは、グループディスカッションにおける最も基本的な立ち居振る舞いであることを、再度、確認しておいてください。

### (4) その他

次のようなグループが複数ありました。

- ・司会が、グループディスカッションの流れを適切にとりまとめることを、できていない。  
(選考の際に司会に立候補することは、ハイリスク(グループディスカッションの流れを適切にとりまとめられなかった場合、低評価につながる)＝ハイリターン(グループディスカッションの流れを適切にとりまとめられた場合、高評価につながる)であることを、確認してください。)
- ・タイムキーパーが、正確に時間を把握し参加者全員に知らせることを、できていない。
- ・書記が、これまでの発言を適切に集約することを、できていない。

合格を目指すならば、ある役職を担った以上その役職に求められる役割をきっちりと果たすことが必要とされます。

なお、以上で指摘した課題に対応するために、必要に応じて次のような取り組みを行うことも考慮に入れるとよいでしょう。

- ・司会が、グループディスカッションの流れを適切にとりまとめることができていない場合に、司会以外の志願者が司会を補助するような発言をする。
- ・タイムキーパーはもちろんのこと他の志願者も、正確に時間を把握したうえで、参加者全員に知らせることに、注意を向ける。
- ・書記がこれまでの発言を適切に集約できるよう、司会等の他の志願者が、書記に、これまでの議論を整理するような発言を促す。

## まとめ

これまでの講評でも繰り返し述べたことですが、高大接続入試(法学的思考型)で問われるのは、特別な能力や技能ではなく、これまでに習得してきた基礎的な知識と思考力・主体性です。したがって、確実に合格を目指すためには、何か特別な対策をするのではなく、授業を中心とした普段の活動に精力的に取り組むことを最も大事にしつつ、さらに世の中の様々な出来事に対して幅広い関心を持つことを心掛けてください。